

初級文型 I

2025.3.27. 北野 麻由

<はじめに>

- ・「初級文型 I」全 5 回では、教科書「みんなの日本語：初級 I」を使用し、日本語文法について説いていく。
- ・「文型抜き出しレポート I」
下記①～④をまとめたものを受付に提出する。
実習に入るための要件。(Ⅱも必要)
- ①「みんなの日本語 初級 I」の「練習 A」に出てくる文型
(「学習項目一覧」参照)
- ②文型の代入例
(文型「 [人] は [N] です。」
代入例 [人]: わたし、〇〇さん [N]: 学生、会社員)
- ③各課の新出語彙
- ④教える際のポイント

国語文法と日本語文法の違い

	国語文法	日本語文法
教える対象	日本語 を母語とする人	外国語 を母語とする人
教え方	細かい品詞分類を教える	シンプルでわかりやすい文法体系を提示
文法用語	※資料参照	※資料参照



直接法について

- ・目標言語だけを使って教える。つまり、学習者の母語や媒介語は使用しない。
- ・語彙は絵やジェスチャー等で、文法は例文を挙げて理解を促す。

<みんなの日本語：初級 I >

- ・(ix) I 課の学習の流れ
- ・P 4
 - 2.長音 (エ列長音、オ列長音に注意)
 - 3.撥音
 - 4.促音
 - 5.拗音
 - 6.アクセント
 - 7.イントネーション
- ・P.5 「教室のことば」「毎日のあいさつと会話表現」「数字」:
実践 (模擬授業) でいきなり使ってもいい。それ以外は、実践で使える語彙は、当該課の新出語彙まで。文型は、直前の文型まで。

第 1 課

<目標> 自己紹介ができる。

<練習 A の文型>

1. わたしは マイク・ミラーです。
ワンさんは ちゅうごくじんです。

[人] は [N] です。
(人の名前、国籍、職業)

※副助詞「は」

2. わたしは カール・シュミットじゃ (では) ありません。

[人] は [N] じゃ (では) ありません。
(人の名前、国籍、職業)

※否定文

3. あの 人 (方) は きむらさんですか。

[人] は [N] ですか。
(人の名前、国籍、職業、「だれ (どなた)」)

※疑問文 ※終助詞「か」

4. わたしは IMC の しゃいんです。

[人] は [N] の [N] です。
(所属先) (身分)

※格助詞「の」 ※「先生」と「教師」

5. マリアさんも ブラジル人です。

[人] も [N] です。
(人の名前、国籍、職業)

※副助詞「も」

6. テレーザちゃんは 9 さいです。

[人] は _____ さいです。
[人] は なんさい (おいくつ) ですか。

※1 歳、8 歳、10 歳、20 歳の読み方注意

<ノート>

- ◎「あなた」の使い方に注意 (例文 1)
- ◎学生同士で年齢を聞く練習は避ける
- ◎P.11 練習 C-2「失礼ですが、お名前は？」

<会話> 「初めまして」

- ・簡単な挨拶と自己紹介ができるようになること。
- ・「[国] から きました。」

第2課

<目標>物を指し示して、それが何か聞いたり答えたりできる。
物の持ち主を聞くことができる。 ※「こそあど言葉」を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. これは つくえです。

これは [N] です。
これは なんですか。

2. それは ボールペンですか、シャープペンシルですか。

それは [N] ですか、[N] ですか。

※オータナティブ・クエスチョン/選択疑問文

3. これは くるまの 本です。

これは [N] の [N] です。
これは なんの [N] ですか。

※格助詞「の」

4. あれは わたしの かばんです。

あれは [人] の [N] です。
あれは だれの [N] ですか。

※格助詞「の」

5. あれは わたしのです。

あれは [人] のです。

※「の」：名詞の代わりの「の」、準体助詞

6. この てちょうは わたしのです。

この [N] は [人] のです。

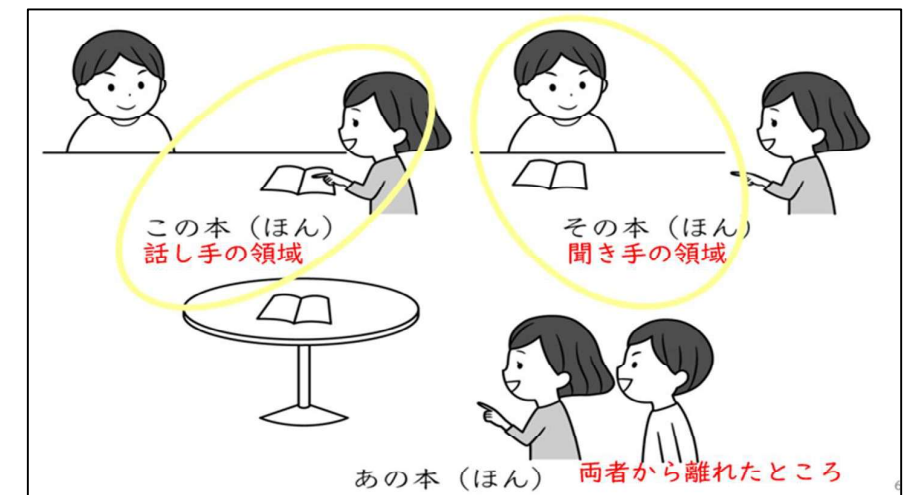
※「の」：名詞の代わりの「の」、準体助詞

<ノート>

◎「こそあ」について

①現場指示：話しているとき、目の前にあるものを直接指す

聞き手と話し手の間に
距離がある場合



聞き手と話し手が
接近している場合



②文脈指示：話の中のものを指す（中級）

◎質問に対する答え方

「はい、そうです。」（例文 1）

「いいえ、わたしのじゃ ありません。」（例文 7）

「いいえ、違います。」（練習 C 3）

<会話> 「これからお世話になります」

- ・引っ越したときの隣の人への挨拶
- ・部屋番号の読み方
- ・「これからお世話になります。」「どうぞよろしくお願いします。」
- ・「どうぞ。」

第 3 課

<目標> 場所を示したり、尋ねたりできる。また、値段や製造国を店員に尋ねられる。 ※場所を示す「こそあど言葉」を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. ここは きょうしつです。

ここは [場所] です。

※P.28 問題 3 「そこは 会議室です。」「あそこは トイレです。」

2. うけつけは ここです。

[N] は ここ/そこ/あそこです。
(場所・物・人)

[N] は どこですか。

※「どこが [N] ですか。」

3. じどうはんばいきは 2 かいです。
さとうさんは じむしょです。

[N/人] は [場所] です。

4. エレベーターは こちらです。

 [N] は こちら/そちら/あちらです。
(場所・物・人)

 [N] は どちらですか。

※P25 練習 B4：新出語彙「うち」は、ひらがな表記

5. くには フランスです。

 [N] は [N] です。
(国・会社・学校)

 [N] は どちらですか。

※例文 5：お国は どちらですか。

6. これは にほんの くるまです。

これは [N] の [N] です。
(製造国・製造会社)

これは どの [N] ですか。

※格助詞「の」

7. この ネクタイは 1500 えんです。

この [N] は 円です。
この [N] は いくらですか。

※「4円」、300、600、800、1000、3000、8000、10000 の
読み方注意 (翻訳版 P164 参照)

<ノート>

◎「どこ」と「どちら」

	物 (普通)	物 (敬称)	人 (普通)	人 (敬称)	方向	場所 (普通)	場所 (丁寧)
名称を 問う	なに	なに	だれ	どなた	どちら	どこ	どちら
指示を 要求する	どれ	どちら	どの人	どなた どの方	どちら	どこ	どちら

※カジュアルな言い方：こっち・そっち・あっち・どっち

<会話>「これをください」

- ・簡単な買い物ができる
- ・1階、3階、6階、8階、10階、何階 の読み方注意
- ・「どうも」「[N] を見せてください」「じゃ、これをください」

第4課

<目標> 時間と曜日が言える。簡単な日常の行動について話せる。
※初めて動詞が出てくる課。

<練習 A の文型>

1. 今 4じ5ふんです。

今 [時間] です。
今 なんじですか。

2. 休みは すいようびです。

[N] は [曜日] です。
[N] は なんようびですか。

3. 昼休みは 12じから 1じまでです。

[N] は [時間] から [時間] までです。

※「から」:「起点」を表す助詞
「まで」:「限度」を表す助詞

4. わたしは 毎朝 6じに 起きます。

[人] は [時間] に [V] ます。

※初めての動詞文（マス形・自動詞）
※活用：V ます、V ません、V ました、V ませんでした
※「に」: 格助詞

5. わたしは 9じから 5じまで 働きます。

[人] は [時間] から [時間] まで [V] ます。

6. わたしは まいにち 勉強します。
わたしはきのう 勉強しました。

[人] は [時を表す言葉] [V] ます。
※動詞の現在形（マス形）

[人] は [時を表す言葉] [V] ました。
※動詞の過去形

※ただし、まだ「マス形」や「過去」という言葉は使わない。

7. ねます ねません ねました ねませんでした

※動詞の4つの形（肯定現在・否定現在・肯定過去・否定過去）

<練習 A 以外の文型>

・例文2: [N] は [曜日] と [曜日] です。
※「と」: 名詞と名詞を結びつける助詞

・会話: [N] の 電話番号は _____ です。
※P.38 (CD) 問題4の6

<ノート>

◎練習 A 文型 123 は、名詞述語文。文型 456 は、動詞述語文。

◎動詞述語文と時間

・「土曜日 働きますか。」(例文 6)

・日本語の時制(テンス)は 2 つ!

1. 過去 …… 過去

2. 非過去 …… 現在、未来、習慣的行為

・「ごろ」と「ぐらい」

～ごろ…だいたい時刻を表す(P.114、13 課)

～ぐらい…だいたい時間を表す(P.90、11 課)

・時刻の言い方

1、6、8、10、20、30、40、50「っぶん」 3、4「ぶん」

「半」「午前」「午後」

<会話>「そちらは何時までですか。」

・電話番号の聞き方

・「N の電話番号は何番ですか。」→「何番」は新出語彙

第 5 課

<目標> 目的地、交通手段、自分の予定について聞いたり答えたりできる。 ※移動動詞(行きます・来ます・帰ります)を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. わたしは スーパーへ 行きます。

[人] は [場所] へ 行きます。

[人] は どこへ 行きますか。

※格助詞「へ」

※「へ」で受けること!

「～に行きます」が OK になるのは、みん日Ⅱ 29 課

※練習 C1「そうですね。」

「タワポンさんは？」

2. わたしは バスで 会社へ 行きます。

[人] は [乗り物] で [場所] へ 行きます。

[人] は なんて [場所] へ 行きますか。

※格助詞「で」: 交通手段 例) バスで、自転車で、車で

例外「歩いて」(練習 B3-4) = 「歩きます」のテ形

※「なんて東京へ行きますか。」(例文 3)

3. わたしは ミラーさんと 日本へ 来ました。

[人] は [人] と [場所] へ 来ました。

[人] は だれと [場所] へ 来ましたか。

※格助詞「と」

※「一人で」(練習 B4-4、練習 C2) 格助詞「で」

4. わたしは 7がつ 15にちに 国へ 帰ります。
にちようび (に)
らいしゅう

[人] は [時を表す言葉] (に) 国へ 帰ります。
[人] は いつ 国へ 帰りますか。

※格助詞「に」

<練習 A 以外の文型>

例文 6: 「誕生日は いつですか。」… 「～月～日です。」

<ノート>

◎ 「わたしはタクシーでうちへ帰ります。」 (P40 文型 2)

◎ 移動動詞

「行く」: ①現在いる場所を離れる = 出かける → 反対は「来る」

②目的地に向かうこと → 反対は「帰る」

「来る」: 何かが自分のいる場所に向かって近づく行為。

「帰る」: 本来帰属している場所に戻る。自分の家や故郷など。

「戻る」(みん日Ⅱ 32 課): 移動したものが元の場所に戻る。

◎ 助詞の省略

「どこ (へ) も 行きませんでした。」(例文 2)

「どこも 行きません。」(練習 C1)

<会話> 「この電車は甲子園へ行きますか。」

・「どういたしまして」「～番線」

・「普通ですよ。」※終助詞「よ」

第 6 課

<目標> 日常生活について話せる。人を誘ったり誘いを受けることができる。 ※他動詞、否定疑問文が出てくる課。

<練習 A の文型>

1. わたしは パンを 食べます。

[人] は [N] を 食べます。
なにを 食べますか。

※格助詞「を」

※他動詞が初めて出てくる。

2. わたしは サッカーを します。

[人] は [N] を [V] ます。
なにを しますか。

3. わたしは デパートで 紅茶を 買いました。

[人] は [場所] で [N] を [V] ます。
どこで [V] ますか。

※格助詞「で」

※「ミラーさんに 会います」(練習 B5-1)

よくある誤用例「と」「を」

4. いっしょに 京都へ 行きませんか。

いっしょに [V] ませんか。

※否定疑問文、誘いかけを表す。

※練習 A4 の文型に対する答え方

「ええ、いいですね。」(例文 6、会話、練習 C3)

「ええ、V しましょう。」(練習 B7)

5. あそこで やすみましょう。

[V] ましょう。

①聞き手を誘う。

例) ちょっと 休みましょう。(P48 文型 4)

②誘いを受け入れる返事をする。

「V ませんか」に対して、肯定で応える表現。

例) A: いっしょに 浅草へ 行きませんか。

B: いいですね。 行きましょう。

<練習 A 以外の文型>

例文 3: 「何も 食べませんでした。」

<ノート>

◎この課のポイントは 2 つ

①他動詞

②聞き手を誘う表現「V ませんか」「V しましょう」

※この課のねらいは、簡単な誘いに対して応じられること

◎場所につく格助詞「へ」「に」「で」

「で」: 行為が行われる場所

例) 駅へ(に) 行く。／ 駅で切符を買う。

東京に住んでいる。

札幌に暮らす山田さんは夏に弱い。

銀行に勤めている。／ 銀行で働いている。

◎聞き手を誘う表現(文型 4、5)

・「V ませんか」「V しましょう」⇒違いは?

※「V しましょうか」(申し出) → 14 課

◎例文 4: 「それから」… 新出語彙

連続した行為について話せるようになる

<会話> 「いっしょに行きませんか。」

・友達からの誘いを受けることができる

・「わかりました。」

・「じゃ、また あした。」

第7課

<目標> 日本語で何と言うかわからないものについて尋ねられる。
人からもらったり、人にあげたものについて話せる。

<練習 A の文型>

1. わたしは はして ごはんを 食べます。

[人] は [N] で [N] を [V] ます。
なんで [N] を [V] ますか。

※格助詞「で」

2. わたしは にほんごで レポートを 書きます。

[人] は [言語] で [N] を [V] ます。

※格助詞「で」

3. 「ありがとう」は えいごで “Thank you” です。

_____ は [言語] で _____ です。

※「～は 日本語で 何ですか。」(例文 3)
「何と言いますか。」(21 課)

4. わたしは さとうさんに チョコレートを あげます。

わたしは [人] に [N] を あげます。

※主語は「わたし」に限定して教える。

※格助詞「に」「を」

※新出語彙「電話をかけます」(練習 B3-4)

5. わたしは ワットさんに/から 本を もらいました。

わたしは [人] に/から [N] を もらいました。

※格助詞「に」「から」

※新出語彙「[人] に 借ります。/習います。」(練習 B4、5)

※新出表現「すてきですね」(練習 C2)

6. もう 荷物を おくりましたか。

([人] は) もう [V] ましたか。

…はい、もう [V] ました。(例文 6)

…いいえ、まだです。(例文 7)

<ノート>

◎3つの項目がある

1. 授受表現
2. 手段・道具の「で」
3. もう [V] ました。

◎授受表現について

- ・いろいろ言い方がある(授受動詞、あげもらい、やりもらいなど)
- ・7つの動詞がある

「あげる」グループ：あげる、さしあげる、やる(41 課)

「もらう」グループ：もらう、いただく

「くれる」グループ：くれる(24 課)、くださる(41 課)

- ・モノの授受(本動詞)と恩恵行為の授受(補助動詞)

→V てあげる、V てもらう、V てくれる(24 課)

→V てやる、V ていただく、V てくださる(41 課)

※「さしあげる」は中級

- ・動作の受け手にとって出来事がありがたいことを表す。

同じ事柄を違った視点から表現することで動詞の形が変わる。

①「あげる」

わたしは [人] に [もの] をあげます。

() ()

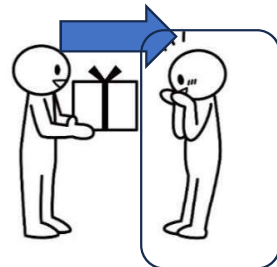
話し手



②「もらう」

わたしは [人] に/から [もの] をもらいました。

() ()

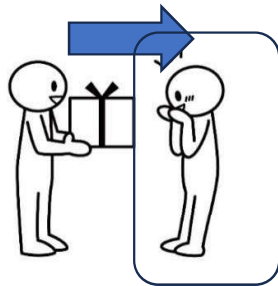


話し手

③「くれる」

[人] は わたしに [もの] を くれます。

() ()



話し手

◎P56 文型 3

「わたしはカリナさんに (から) チョコレートをもらいました。」

・「に」と「から」⇒違いは？

<会話> 「いらっしゃい」

・日本人の家を訪問したときの会話

・「いらっしゃい。」「どうぞお上がりください。」

「失礼します。」「～はいかがですか。」「いただきます。」